



「自助」と「共助」を考える

実施報告(ダイジェスト版)

災害時対応事業

～ 防災ボランティア養成講座 & つくば市地域防災訓練 ～



ステップ

1

ステップ

2

ステップ

3

ワークショップ

「つくば市で起こる可能性のある災害」「被害想定シナリオづくり」

期 日/平成21年11月14日(土)

9:00 ~ 13:00

会 場/筑波小学校体育館

参加数/86名

ワークショップ

「みんなでまちあるき 安全安心マップづくり」

期 日/平成21年11月21日(土)

9:00 ~ 13:00

会 場/筑波小学校体育館

参加数/74名

つくば市地域防災訓練

「地域住民が主体の地域防災訓練」

期 日/平成22年1月24日(日)

09:00 ~ 13:00

会 場/第1会場:筑波小学校

第2会場:働く婦人の家

第3会場:つくば松実高校

参加数/216名

主 催 つくば市地域防災訓練実行委員会 / 社会福祉法人つくば市社会福祉協議会

後 援 つくば市 / つくば市教育委員会 / 独立行政法人防災科学技術研究所

講師 招聘 独立行政法人防災科学技術研究所

参加 対象 筑波小学校区内の各区会役員及び班長、各单位シルバークラブ会員、筑波小学校PTA、各民生委員児童委員、地域のつながりに関心のある地区住民の皆さん



この事業は、赤い羽根共同募金の配分を受けて実施しています。

[裏面へ]

災害時対応事業

～ 防災ボランティア養成講座 & つくば市地域防災訓練 ～

今年度は、地域防災訓練を地域住民が主体となった災害時対応ができる機会とし、区会役員や民生委員児童委員などの地区役員、福祉関係事業者、市民活動団体、ボランティア、行政機関など、災害時の支援に必要な機関が連携するために実行委員会を組織し、実施しました。

防災ボランティア養成講座【ワークショップ】/筑波小学校 「つくば市で起こる可能性のある災害」「被害想定 シナリオづくり」

期 日 / 平成21年11月14日(土)09:00～13:00
会 場 / つくば市立筑波小学校体育館
講 師 / 独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センター
参加数 / 86人(地域住民60人、地域内外ボランティア5人、スタッフ21人)

つくばで起こりうる災害の特徴や、災害時要援護者支援のあり方を学びました。その後、住民が協力して「安否確認と救急対応」「避難所への誘導と自主避難」「避難所の運営」「地域ケア(介護・医療)の継続」の4つをテーマにして被害想定シナリオをつくりながら、対策を検討するなど、防災と福祉のまちづくりの大切さについて学びました。



区会ごとにグループをつくり、講師の説明を熱心に聞いていました。



住民、行政、医療機関などの役割を参加者がそれぞれ経験。



役割を経験することで、一つの災害を様々な視点で見つめることが出来ました。



各グループとも熱心な議論が行われました。アンケートからは有意義な体験だったことが伺えます。

防災ボランティア養成講座【ワークショップ】/筑波小学校 「まちあるきと安全安心マップづくり」

期 日 / 平成21年11月21日(土)09:00～13:00
会 場 / つくば市立筑波小学校体育館
講 師 / 独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センター
参加数 / 74人(地域住民58人、地域内外ボランティア5人、スタッフ11人)

地域の安全安心を確保するためには地域を点検することが大切です。筑波小学校校区のそれぞれの区域内を地域住民のみなさんが歩いて点検し、地図に情報を集約しました。避難所となる小学校周辺地区ごとに危険箇所の情報や防災情報を共有するための防災マップや、災害時にボランティアを被災地区に派遣する際に必要となるボランティア・コーディネート用地図を作成するなど、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいました。



区会ごとに児童館(自治会館)に集合し、講師から説明を受けて、まちあるきに出発!



区会内をグループで点検しました。建物、道路、自然物などをそれぞれの視点でチェック。



途中、チェックした内容をグループ内で確認していきます。不明な内容はグループで相談しました。



まちあるきの後、筑波小学校に集合して、チェックした内容を地図に落とし込みました。

平成21年度つくば市地域防災訓練

- 「住民避難訓練」
- 「避難所運営委員会設置訓練」
- 「災害時要援護者安否確認訓練」
- 「災害ボランティアセンター設置運営訓練」

期 日 / 平成21年11月14日(土)09:00～13:00
会 場 / 第1会場:つくば市立筑波小学校
第2会場:つくば市働く婦人の家
第3会場:つくば松実高等学校
講 師 / 独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センター
参加数 / 216人(地域住民142人、地域内外ボランティア35人、スタッフ39人)

ワークショップで検討された内容を基にした訓練プログラムを作成し、関係機関や団体の協力をいただいて訓練を実施しました。今回の訓練は「住民避難」「避難所運営委員会設置」「災害時要援護者安否確認」「災害ボランティアセンター設置運営」の4つが主な柱立てとなって、各場面で参加者が積極的に行動しておられました。

特に、「避難所運営委員会設置」の机上シミュレーションでは、住民が主体となって設置運営するための流れなどが分かりやすく進行され、区会内や区会間の連携の必要性が再確認されました。



訓練会場(避難所)ごとに、避難所運営委員会を立ち上げ、委員長の他、情報、物資、食料、総務、救護など班長を設けて、運営にかかる連携を図りました。



各訓練会場をインターネット回線を使ってつなぎ、開会式や閉会式をはじめ、訓練中も他会場の様子が音と映像でよくわかりました。



特に希望者が多かったのは救護班。班員となった住民のみなさんは、消防署の指導でAEDを体験しました。



災害ボランティアセンターでは防災ボランティアや茨城レスキューサポートバイクと連携して、災害時要援護者の安否確認を行いました。